

無用之用

三十輻共一轂。当其無，有車之用。埴埴以
爲器。当其無，有器之用。鑿戶牖以爲室。當其
無，有室之用。故有之以爲利，無之以爲用。

(第十一章)

【書き下し文】

(無為自然の)偉大な道が失われると、(儒家の重んずる)「仁」と「義」の道德が盛んにいわれるようになる。ごさかしい知恵が発達すると、わるだくみが行われるようになる。家族が不和になってくると、孝行な息子や慈悲深い父の存在が目立つようになる。国家が乱れてくると、忠臣がほめそやされるようになる。

【口語訳】

三十本の車輪の「や」は、一つのこしきを共有している。その(こしきの中心の)何もないところこそ、車輪としてはたつきがある。粘土をこねて器物を作る。その(器物の内側の)何もないところこそ、器物としてはたつきがある。戸や窓の穴を開けて(その奥に)部屋を作る。その(部屋の内部の)何もないところこそ、部屋としてはたつきがある。だから形のあつものが(その)役割を果たしているのは、形のないものが(それを支える)はたつきをなしているからだ。